

県西ブロックの成果と課題

県西ブロック部長 入山 克巳

1 研究の概要

(研究主題) ふかめよう つながろう ひろげよう

(1) 研究主題について

令和6年度学校教育指導方針では、主体的・対話的で深い学びの実現のために、探究的な学びの充実が求められている。県西ブロック音楽教育研究部ではそれらを踏まえ、研究主題を「ふかめよう つながろう ひろげよう」とした。「ふかめよう」は、よりよい音楽をつくり上げるために、児童生徒が試行錯誤し深めるということを意味している。「つながろう」は、ペア活動やグループ活動などを通して、児童生徒がつながり、さらに、「ひろげよう」で、自分の考えや演奏を発信して広げ、さらによりよい音楽を求めて深めていくということを表している。

本研究では、ペア活動やグループ活動が活発に行われるようにするための手立てや試行錯誤がうまれるための課題提示の手立てなどを追求していく。そのためには、児童生徒が思いや意図をもって活動できることが必要である。今回は、そのための手立ての一つとして「学びの地図」を示し目指すゴールを明確にした。目的をもって活動していく中で、思いや意図を明確にして音楽活動に取り組むであろうと考え、本研究主題を設定した。

(2) 県西ブロック音楽教育研究発表会

- ① 日時 令和6年11月19日（火曜日）
- ② 場所 坂東市立中川小学校
境町立境第一中学校
- ③ 授業者 坂東市立中川小学校 教諭 鈴木 里央
境町立境第一中学校 教諭 永藤 梢
- ④ 講師 茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 井上 寛士

2 研究内容及び成果

(1) 小学校 第3学年 題材名「拍の流れによって歌や遊びを楽しもう」

① 目標

- 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌う技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- 拍、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
(思考力・判断力・表現力等)
- 体を動かしながら拍の流れによって表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本や諸外国の遊び歌に親しむ。
(学びに向かう力、人間性等)

② 指導事項との関連

A表現 (1) ア、イ、ウ (2) ア、イ、ウ (ウ) [共通事項] (1) ア

本題材の学習において、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素：
：速度、強弱、拍

③ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知：曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。</p> <p>技：思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌っている。</p>	<p>思：「陽気なかじや」の拍、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えどのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>主：体を動かしながら拍の流れののって表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。</p>

④ 題材の指導計画（全8時間）及び本時の展開

次	時	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びの地図」をもとに、本時の学習課題を確認する。 ○日本や世界の子どもの歌を鑑賞し、拍ののって手拍子をしたり、体を動かしたりする。 ○様々な手合わせをしながら、拍の流れを感じながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の「茶つみ」を思い出し、体を動かしたり、ペアで手遊びをしたりして楽しんで鑑賞できるようにする。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○教材曲を知り、「学びの地図」をもとに、学習課題を確かめる。 ・範唱を聴き、歌ったり、手合わせをしたりリコーダーで演奏したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的に速さや音の強弱などを変えて歌ったり、演奏をしたりして表現する活動のヒントになるようにする。 ・ペアやグループでの意見交換を積極的に行い、表現の幅を広げる。 	<p>曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。</p> <p>知【観察・ワークシート】</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「陽気なかじや」に合うよう工夫して表現する。 ・ヒント（音の強弱、速さ、楽器の種類や数など）をもとにどのようにしたら「陽気」を表現できるか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような工夫をするか班ごとに話し合い、ホワイトボードに書いて記録させる。 	<p>思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌っている。</p> <p>技【観察】</p>
4	本時	<p>目標：「陽気なかじや」の拍、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えどのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>1 「学びの地図」をもとに学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「陽気なかじや」に合った表げんをしながら、歌や遊びを楽しもう。</p> </div> <p>2 前時までの工夫点を伝え、班ごとに演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班の演奏を聴いた感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前から「陽気なかじや」の音源を流し、曲を楽しむ雰囲気を作る。 ・前時に記入した工夫点を大型画面に映し出し、目で見て分かるようにする。 ・発表で出た意見は板書に残し、次に生かせるようにする。 	

	<p>3 各班で話し合い、練習する。 (予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する速さを少し速くしよう。 ・音を大きくしたり小さくしたりしてみよう。 ・手合わせを大きくしてみよう。 <p>4 練習した成果を発表し合う。</p> <p>5 全体で「陽気なかじや」を演奏する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回工夫したところから変わったところがあれば、ホワイトボードに赤で訂正するようにし、変化が分かるようにする。 ・話し合いが滞っている場合は、強弱や速さを変化させると雰囲気が変わることを伝える。 ・隣の班の音が混ざらないように活動しやすい場の設定に気を付ける。 ・発表の順番は事前に決めておく。 ・自分たちと比べてよいところを見つけるよう助言する。 ・どんな工夫がよい点に結び付いているのか考えながら聴くよう助言する。 ・前回と変わったところや工夫したところは、ホワイトボードの書き込みで確認できるようにする。 ・みんなで楽しんで音を合わせて演奏することを伝え、友達とのつながりを意識するよう促す。 ・前回と比べてできるようになったことや、次回に生かしたいことを振り返るようにする。 	<p>「陽気なかじや」の拍、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えどのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思【ワークシート】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会 ○これまでの全体のまとめ ・振り返りの発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの中でよくなったこともっとやってみたいと思ったことをポイントにして聴いたり、感想を発表したりする。 	<p>体を動かしながら拍の流れにのって表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 主【観察】</p>

⑤ 成果と課題

「学びの地図」を示すことで、児童が学習に見通しをもち、目的をもって活動することができた。さらに、思いや意図をもって楽しく表現することができた。本時の活動では、「陽気な」をどのように表現するかということが課題となっていたが、教師が例を示すことで、それらをヒントにグループで話し合い、試行錯誤して表現につなげる様子が見られた。

課題としては、活動はグループで行っているので評価をどのように取っていくかである。観点を精選して、適切に評価できるようにしていく必要がある。今後のさらなる研修で改善を図れるようにしていきたい。

① 目標

- 音の重なり方の特徴や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解し、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 (知識及び技能)
- テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。 (思考力、判断力、表現力)
- 音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

② 指導事項との関連

A表現 (3) ア、イ (イ)、ウ [共通事項] (1) ア

本題材において、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素：
：テクスチャ、構成

③ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知：音の重なり方の特徴や反復変化、対照などの構成上の特徴について理解している。</p> <p>技：創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなど、創作の技能を身に付けている。</p>	<p>思：テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>主：音の重なり方の特徴や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

④ 題材の指導計画 (全5時間) 及び本時の展開

	時	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びの地図」をもとに学習課題を確認する。 ○BGMの役割を理解する。 ○コード進行がもつ性格や響きについて関心をもつ。 ○創作の条件、留意点を共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「カトカトーン」を使用し「花火のBGM」をつくることを確認する。 ・ICTサポーターは機器の操作について支援する。 ・コード進行の復習をする。 ・完成形を聴かせ、創作意欲を高める。 	
	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ○花火のテーマを決め旋律づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4枚の写真を提示し、好みの花火を選べるようにする。 ・ペアまたは3人で協働しながら創作することを伝える。 ・創作の条件(4分の4拍子、16小節、2部形式)を示し、創作活動がスムーズに進むようにする。 	<p>◎テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思【観察、ワークシート】</p>

			<ul style="list-style-type: none"> 音を選択する際に、進行の仕方や方向性などを工夫し、試行錯誤しながら、イメージにふさわしい旋律をつくることができるように指示をする。 ICT サポーターは機器の操作について支援する。 	◎音の重なり方の特徴や反復変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 知【観察、演奏聴取】
4 本時	<p>目標：音のつながりや重ね方を工夫して、イメージにふさわしい音楽をつくる。</p> <p>1 本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>音の重ね方を工夫して、イメージにふさわしい音楽づくりをしよう。</p> </div> <p>2 ペアまたはグループで創作活動に取り組む。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 打楽器の音を旋律の合間に散りばめてみよう。 花火が打ち上がった時の「ドーン」という響きを表現したので、低い音を重ねてみよう。 花火が消えていく感じを表すために音の重なりを減らしていってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に行った旋律づくりの取り組みを称賛し、代表作品を紹介する。(1ペア) 本時でポイントとなる音楽の要素カード「テクスチュア」「構成」を掲示し、2つの点に着目して、創作活動を進めていくことを伝える。 音のつながり方や重ね方の工夫の視点として、教師が創作したモデルを聴かせ、活動の手掛かりを与える。 創作のモデルとともに、音のつながり方や重ね方を電子黒板に示しながら、入力の仕方について説明する。 <p>話し合う→音を選ぶ→再生の手順で活動するよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方や重ね方について確認のサイクルを大切にし、試行錯誤しながら活動するよう促す。 話し合いが進まないペアには、イメージに合う音を例示する。 音の重なりが工夫できていないペアには、ハーモニーをつくる際のポイントや打楽器のリズムパターンを示範し、イメージにふさわしい作品に近づけることができるようにする。 音楽づくりが進まないペアには、再度、目標を確認した上で、負担に感じている部分について具体的に例を示すなどし、創作活動を進められるようにする。 	◎創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなど、創作の技能を身に付けている。 技【観察、演奏聴取】	

	3 発表を聴いて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の前半に紹介したペアの作品を再度紹介し、変容を感じ取りながら聴くように指示をする。 ・音の重ね方の工夫について、気付いたことを積極的に発言できるような雰囲気づくりをする。 	
	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・音のつながり方や重ね方を工夫したことで、どのように音楽が変化したのかを振り返り、どうしてイメージ通りの音楽ができたのか、なぜその音を選んだのかについてふりかえることができるようにする。 	
5	○作品発表会を開き、「花火のBGM」を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの作品を発表し合い、互いの音楽の良さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎音の重なり方の特徴（反復、変化、対照などの構成上の特徴）に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 <p>主【観察】</p>

⑤ 成果と課題

授業の初めに教師が作った作品を聴かせることで、学習の見通しをもつことができ、創作活動に意欲的に取り組むことができた。今回は「カトカトーン」を使用してペアによる創作活動を行ったが、協働してつくった旋律を確認しながら進めることができるので、楽器が苦手な生徒でも気軽に何度でも音を聴きながらよりよい音楽にすることができた。花火の写真のイメージを音楽で表現するにあたり、ある程度の条件を設定（リズムパターンの使用、4分の4拍子、16小節、二部形式）したことで、試行錯誤しながら表現に幅が生まれ、イメージに近いまとまりのある作品を仕上げることができた。

課題としては、生徒に取り組ませるときの課題提示の仕方である。今回は生徒にとって身近な花火のBGMをつくるという課題だったので、それに合うようにイメージを膨らませることができたが、生徒の生活や目的意識に合った課題の提示の仕方などは、今後も継続して研修していきたい。また、評価規準については、学習のねらいにあった評価が得られるよう精選していく必要がある。さらに、アプリなどICTの使用に関しても、使うことが目的にならないようにしていきたい。

(3) まとめ

主体的・対話的で深い学びの実現のために、児童生徒が「自分の思いや意図をもって」活動できるようにする手立てを研究してきた。イメージを広げることができるようヒントを与えたり、児童生徒の生活に関連のある題材を選んだりして、児童生徒は自分の思いや意図を明確にして表現することができた。また、ペアやグループでの協働によって、自力で活動することが難しい児童生徒も自信をもって活動できるようになってきた。

今後も、目指すゴールを明確にしなが、音楽的な見方・考え方を働かせた学びがいのある楽しい音楽の授業の在り方を追求していきたい。